へ13
3683
4

新月
丸屋
七編上
春はる
傳
七編下

門へ13
號 3683
卷 4

筆ハ耕ス一意ハ織ルトイフ。
古人ハ全ク及ブベキ僕モ硯ヲ
田地トシテ筆墨ヲ鋤鍬トシテ。
頻リニ穿ツ積リテハ固ヨリ腕モ
疲ル百姓ノ不作ガ續ケバ書肆ノ
未進ヲ促ラル故骨正月ニモ午睡モ
肱ヲ枕ハ頻杖ヲ突草臥ル頃ハ
ツラ〳〵僅ニ一作出来上リ愛ヲ蔑トノミ知レ丈サ
做キデ端書ヲ鍬ノ序ハ物ヲ変ヘタリ。

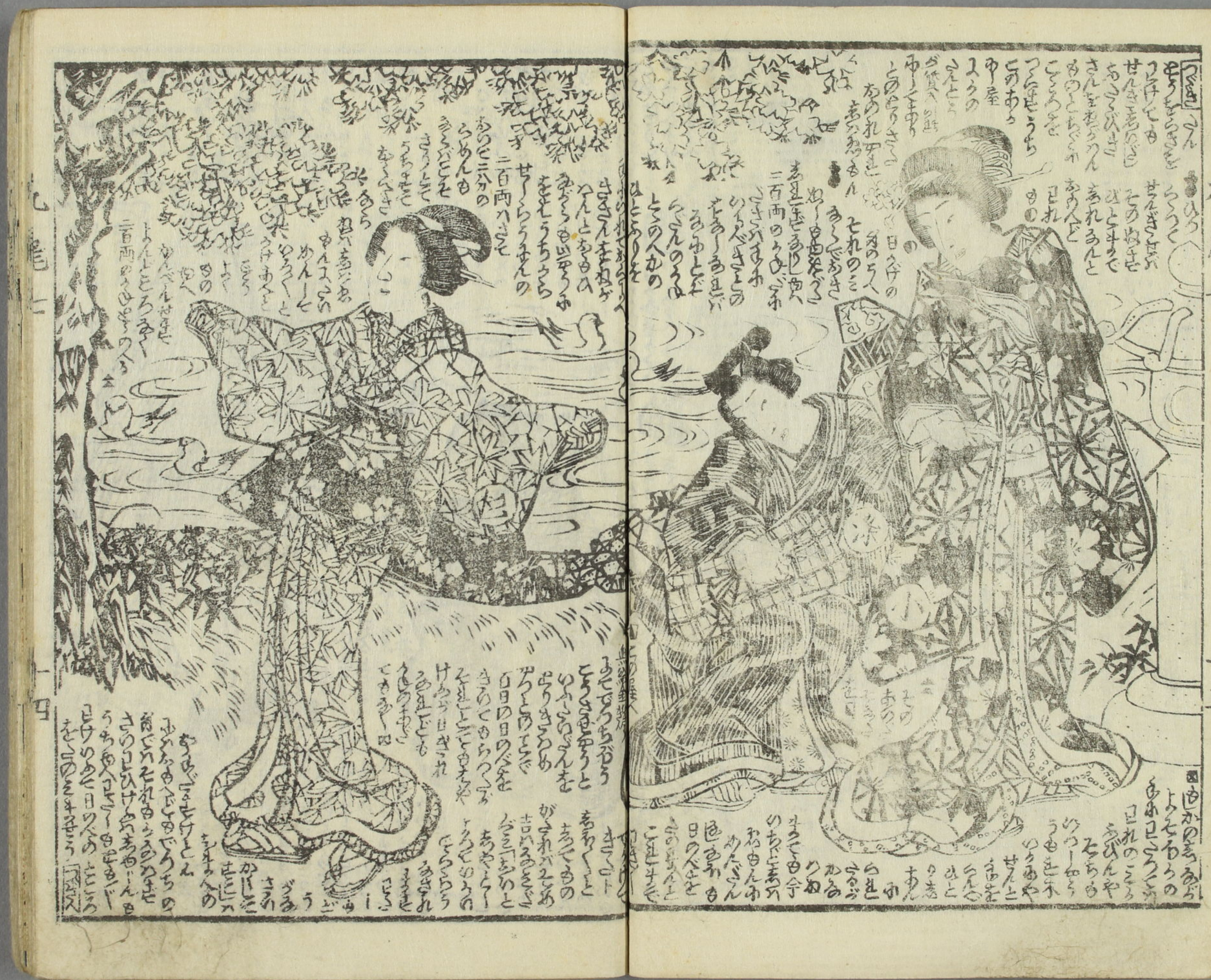
戊辰新春

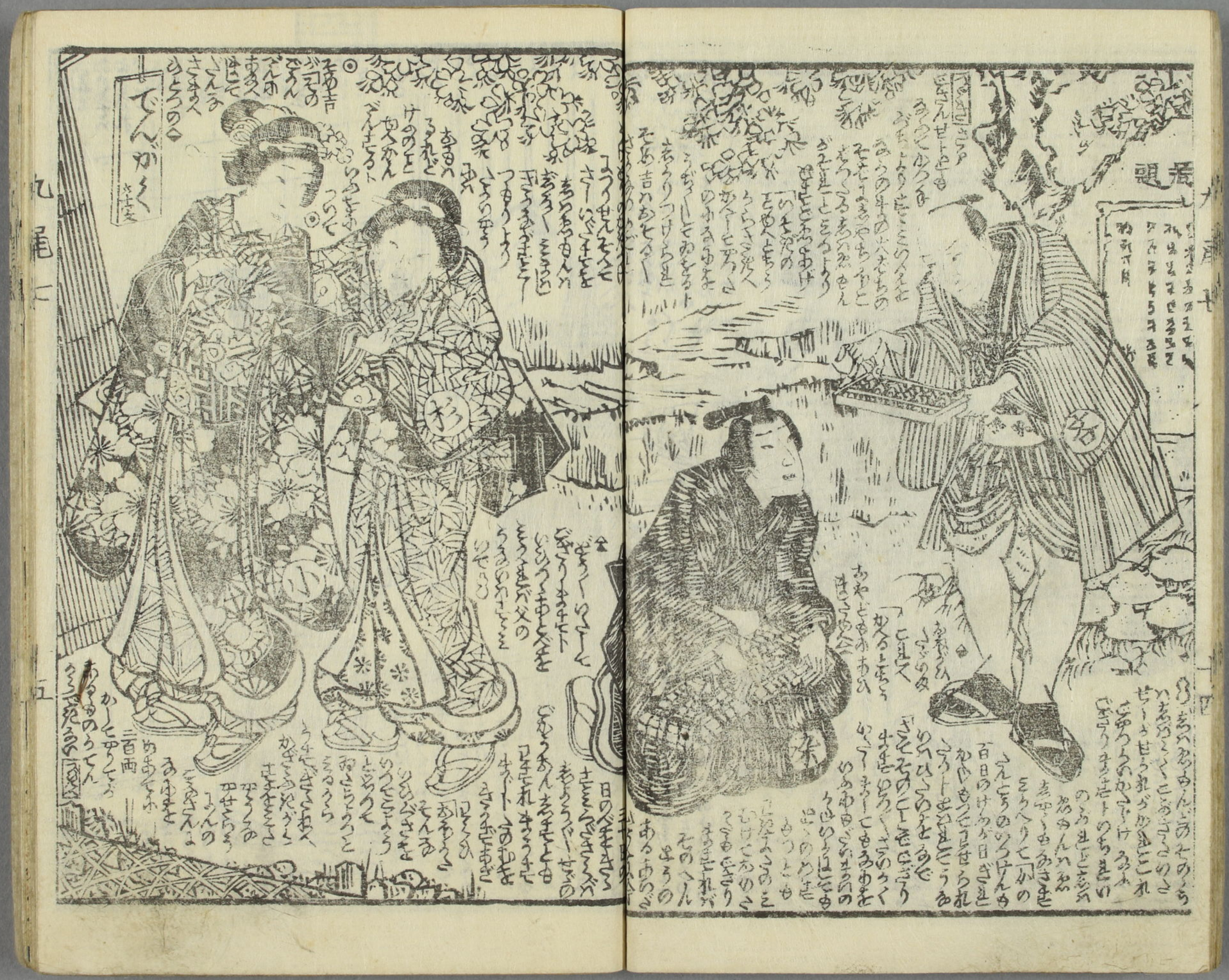
爲永春水記

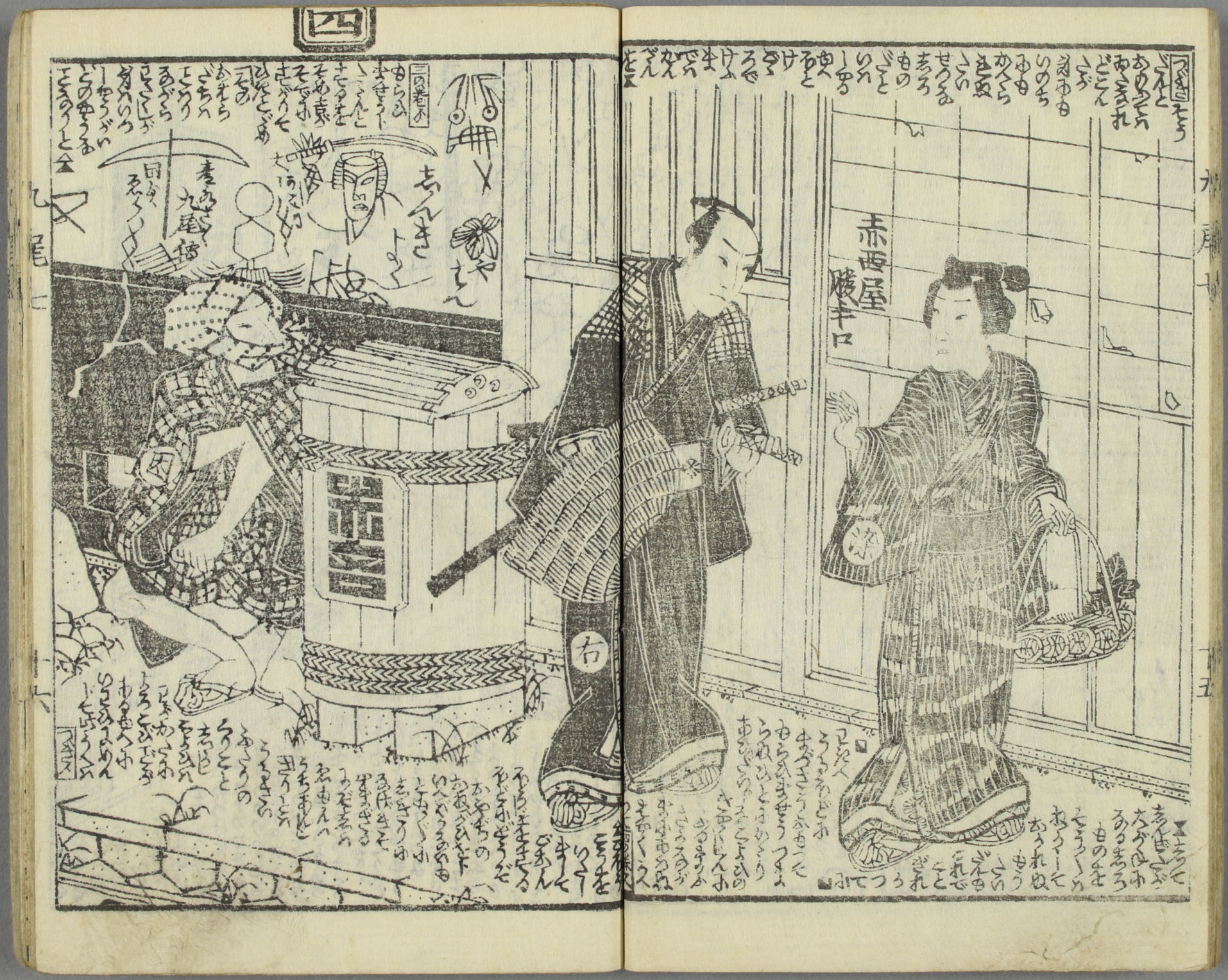
尾道惟定
因果小僧与茂市
後の尾嶋伴作輝景

出せん菓
現
因

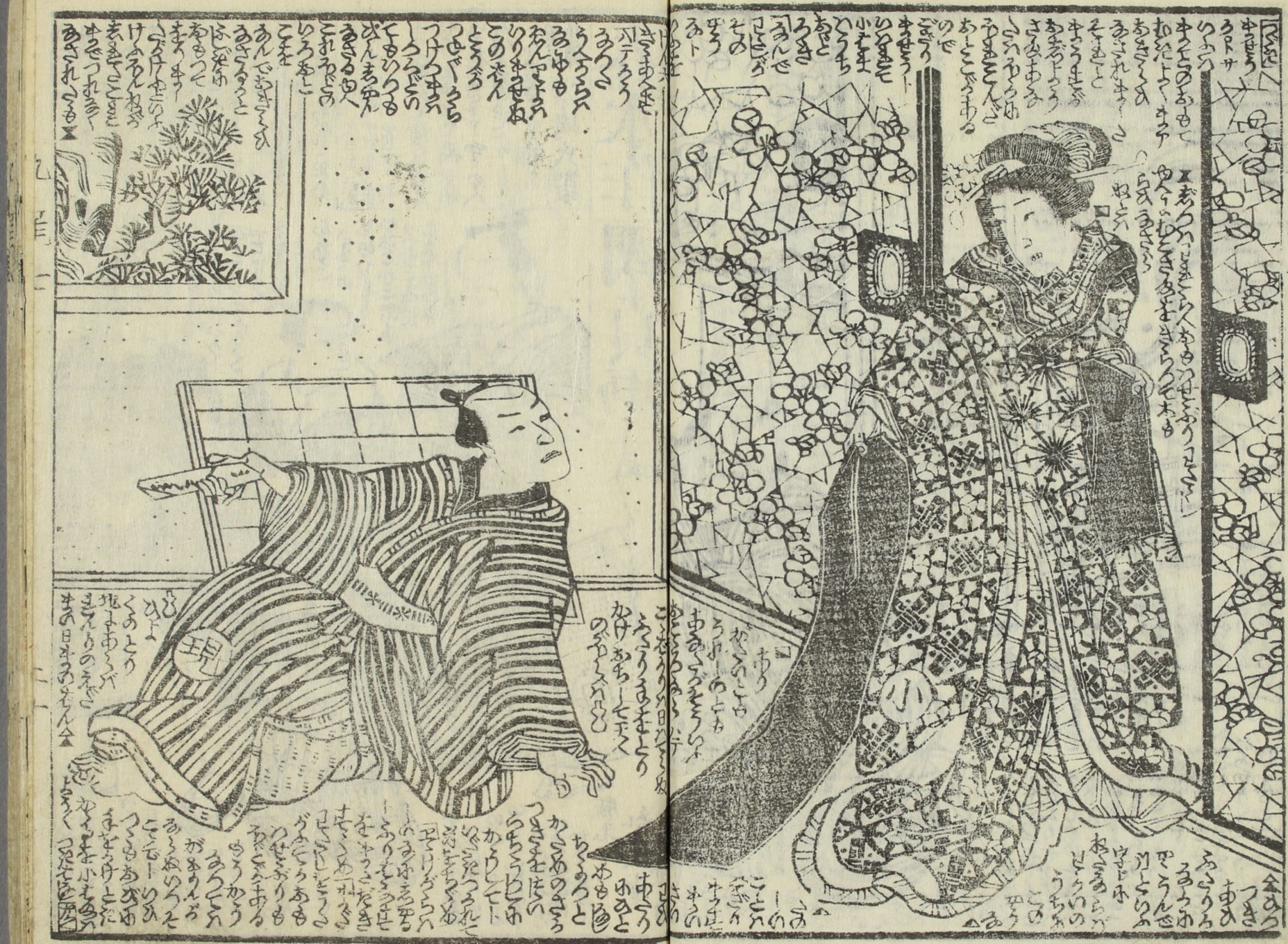
春水作國貞画
出せんべい
由屋すゑ吉




でんがく


赤西屋
勝キロ
右
左
ちんきさ
やちん
丸尾

西梅



朝鮮牛肉丸
大色金二朱
中色金一朱
小色百疋
春水作國貞画
紅英堂
版元

彩画丸屋仍
春水化
春水画

八篇下

八篇上

新局九尾狐

まち水化
むら人重

下

一昨歳前輯を綴り頃い最古めく紀水滸の脚色玉面が自殺を遂るしく。その批口より出現せし、黒氣ホ漸しく這冊子も四五編出さず忽地ホ後方もなく立消して世ホ知る人もなくもやうんと思ひの外ホ看官の何処ぞ御意ホ恢ひしく嗣輯遅しくお尋ねホ僕もぐろと乗りぞ来るく筆を乾るを遑もなく。猶物語ホ尾ホ尾を添へ美ホ五尾子の兇徒等を朧氣ながら現しくられば九士具足ホ至りあば聊住境ホ入るべきと言ふも詰きわられ支人も咲うん示も可笑しく。

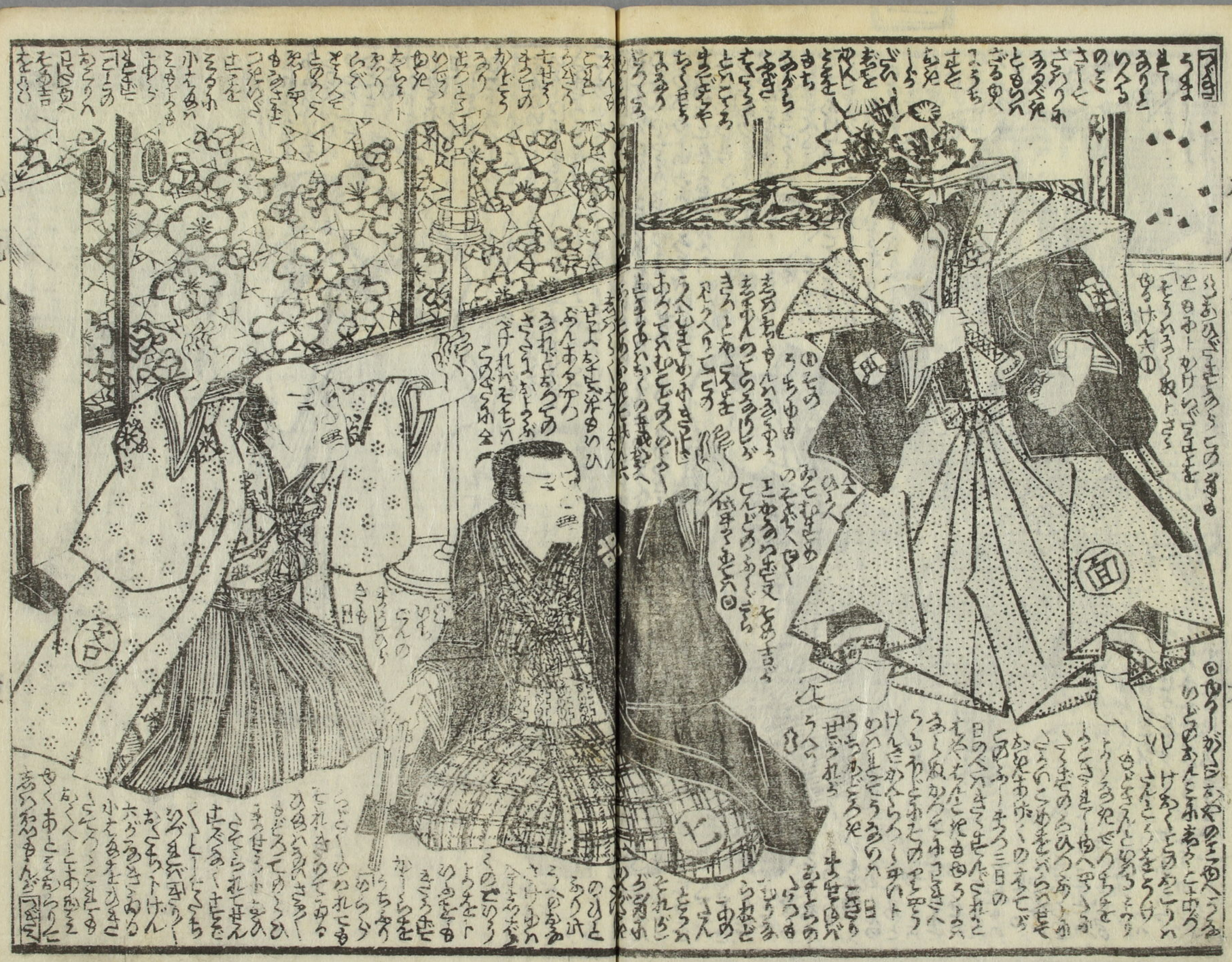
戊辰孟春

爲永春水記

赤西屋
吝左門
赤西屋の丁稚
尾崎
染吉
則
女郎
小濱

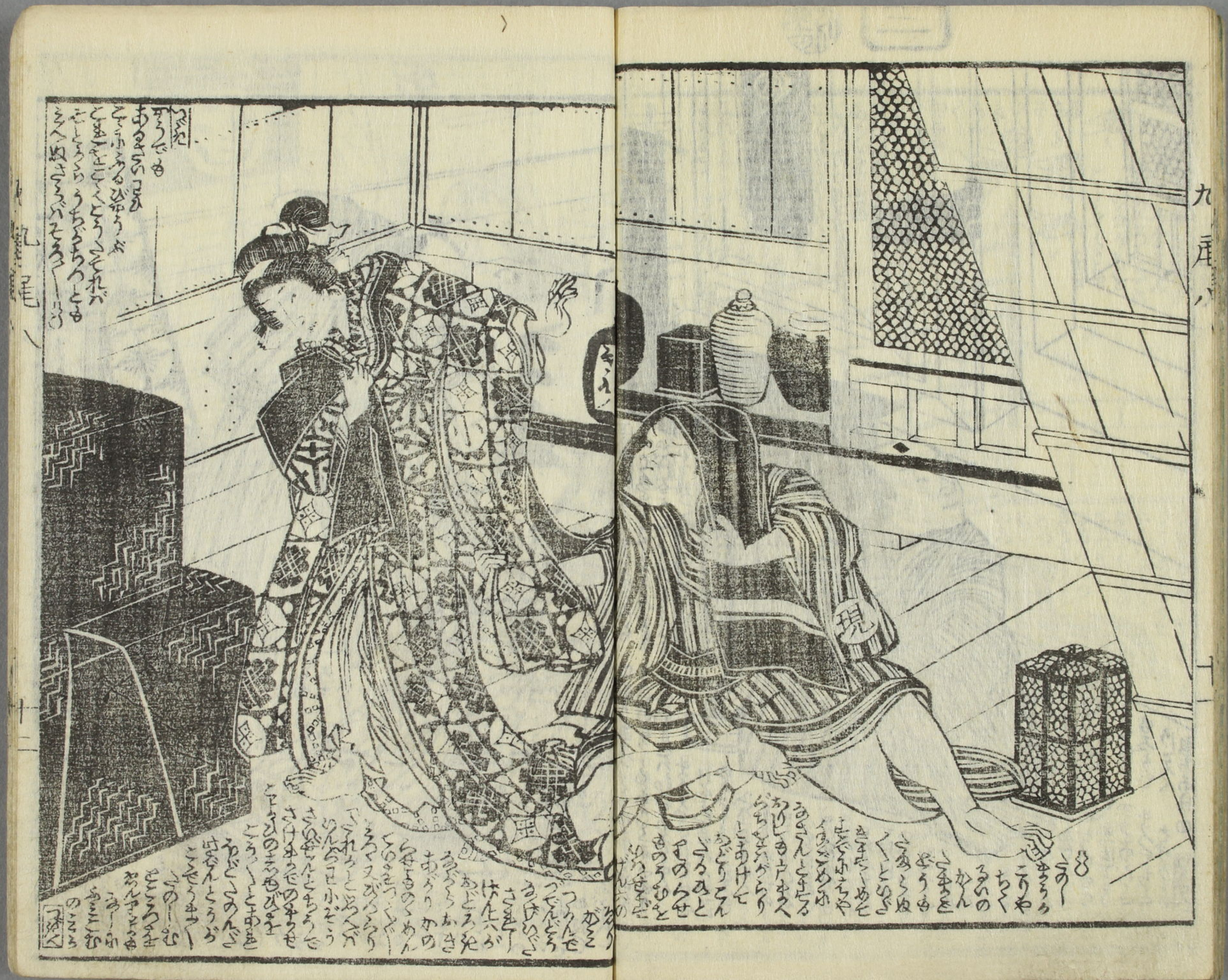
赤西屋の婢阿杉

持九屋面藏

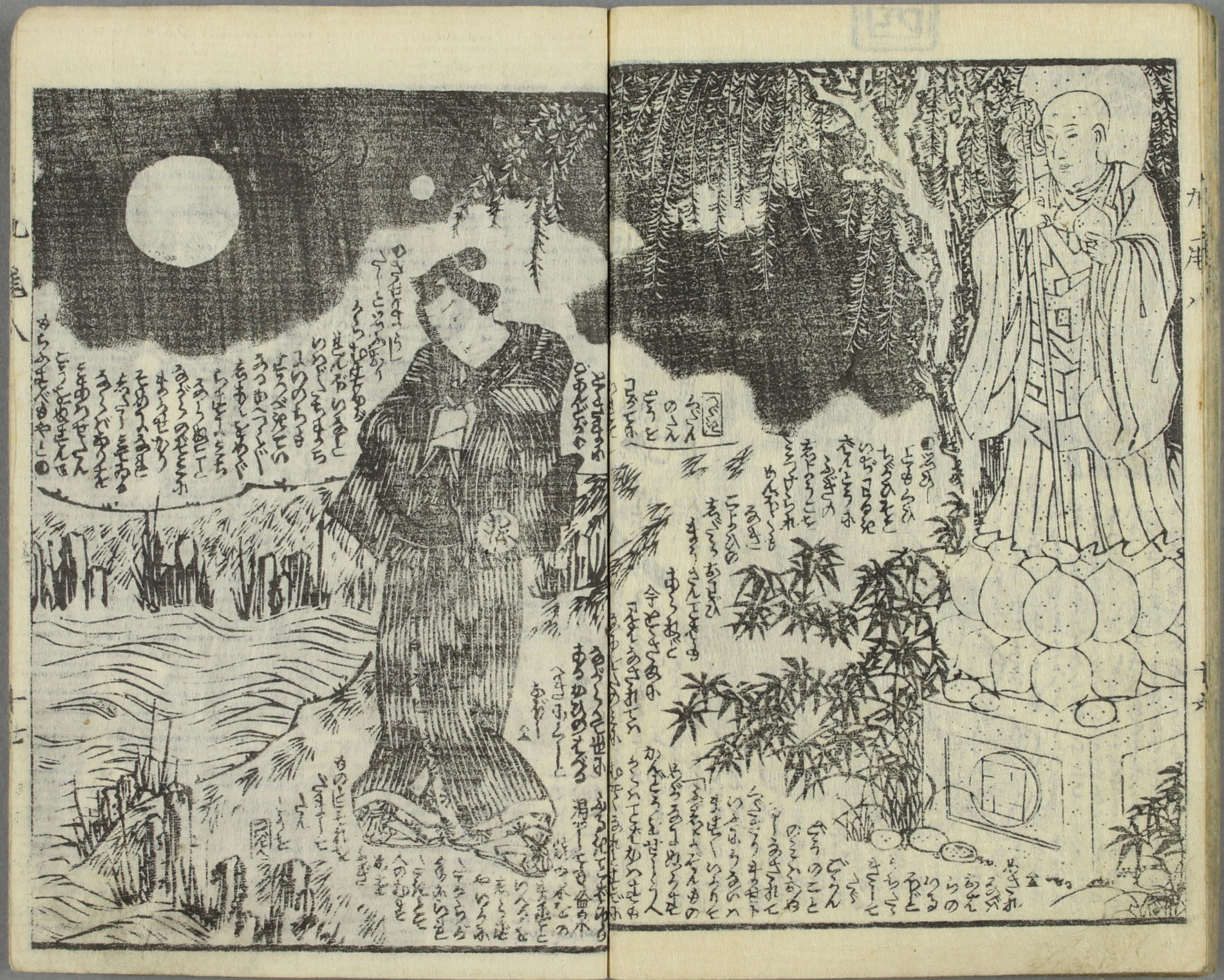


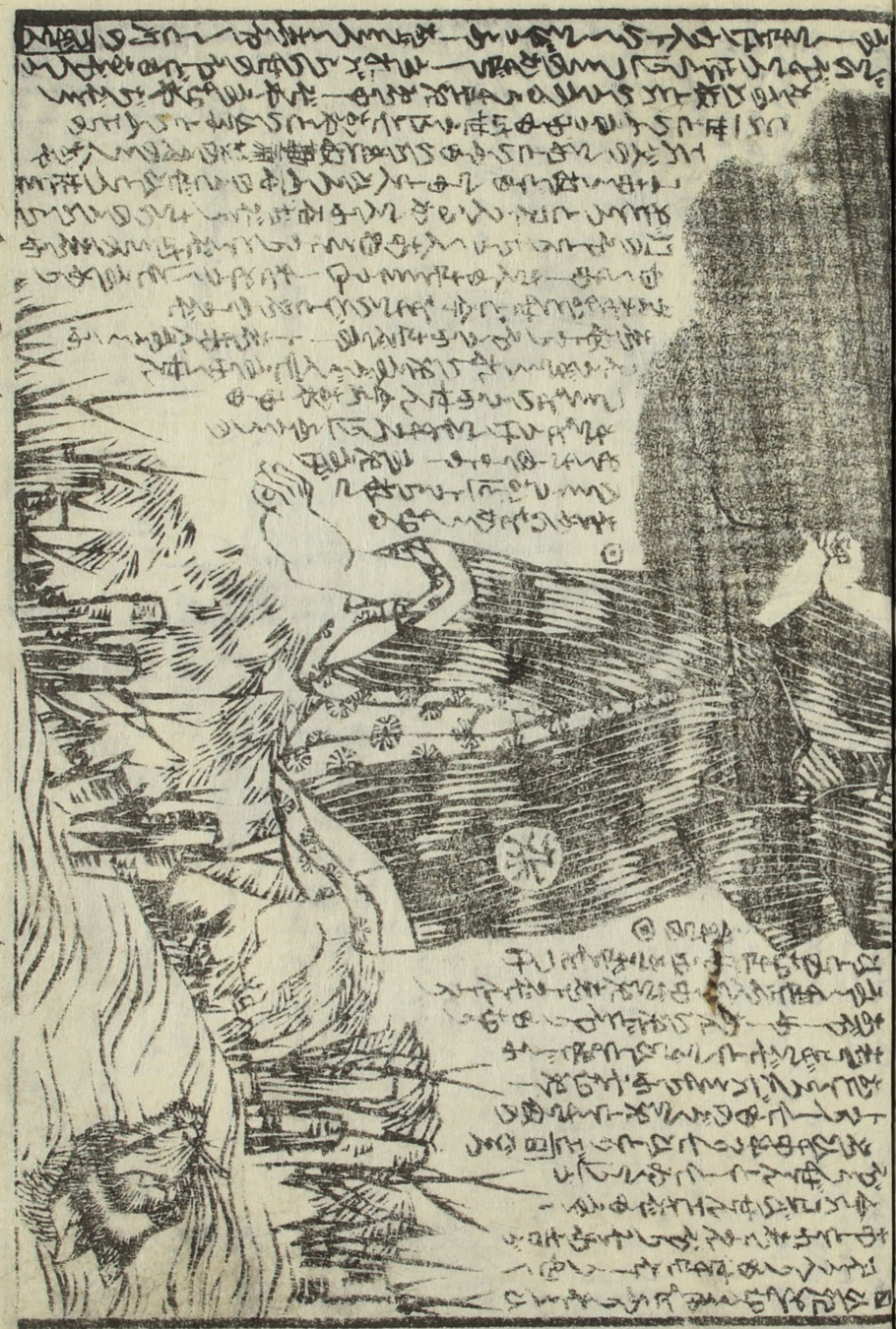
九
十
十一
十二

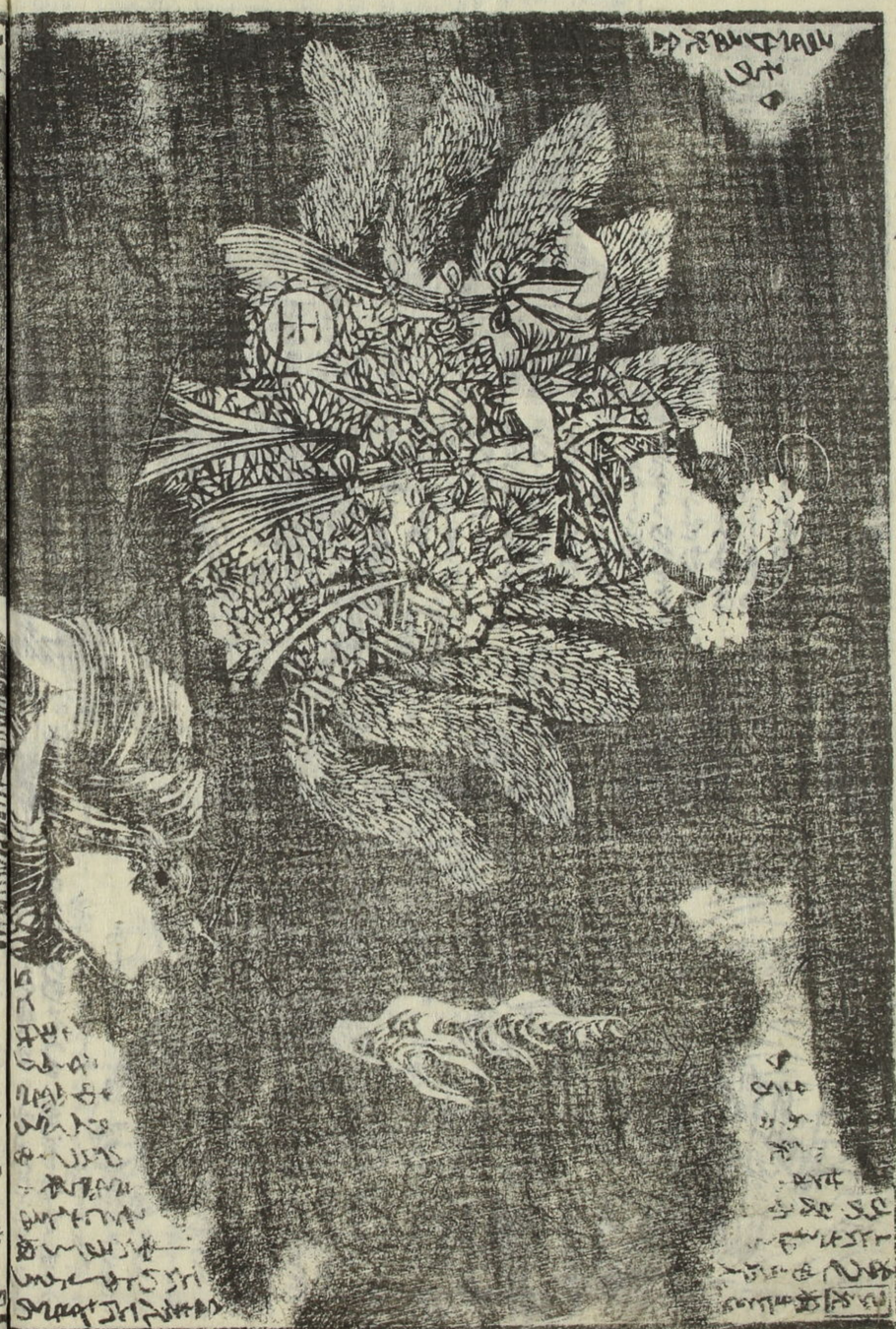
春水作國貞画

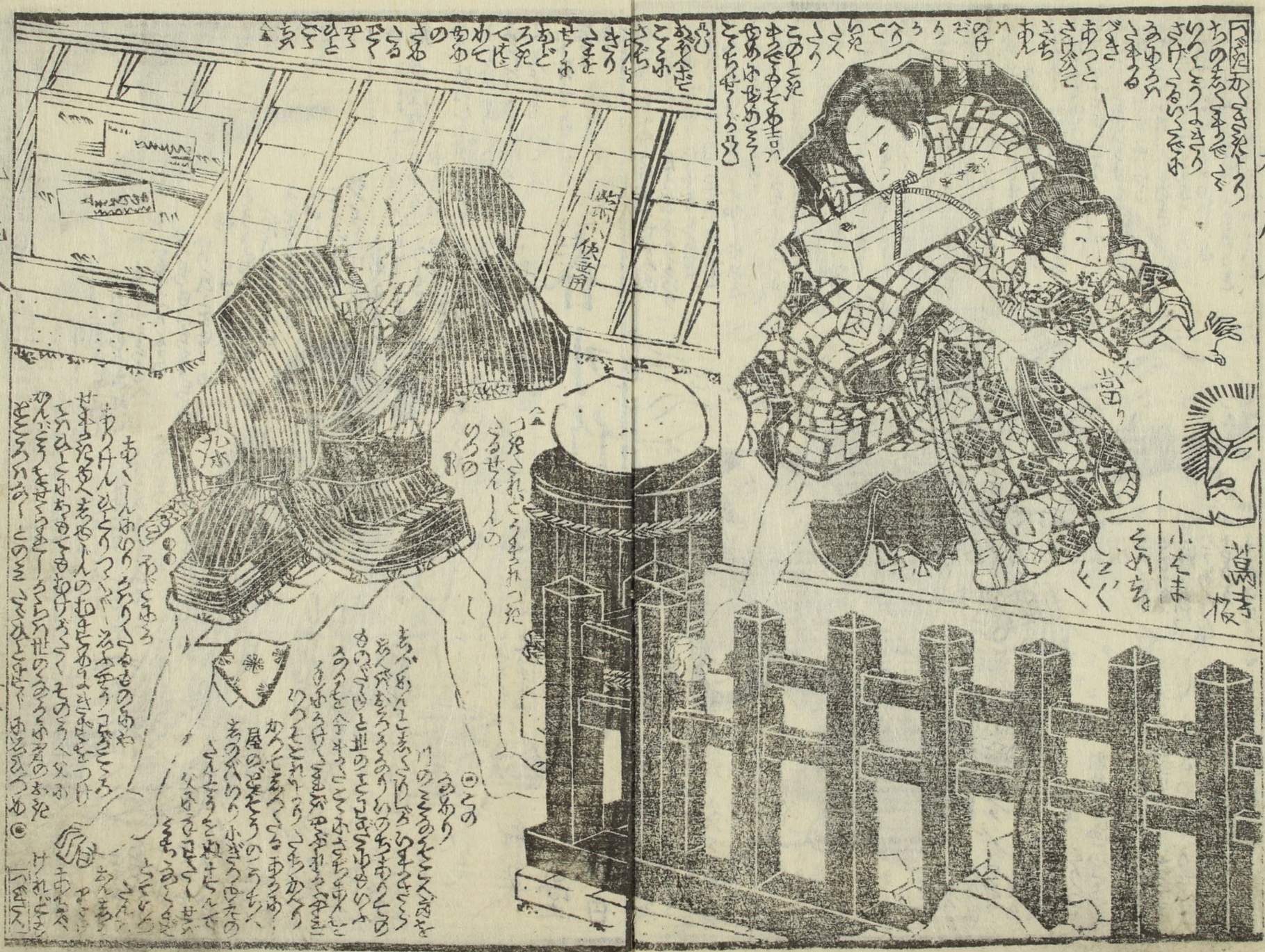


現








高砂
小さま
そめる
しこく

朝鮮牛肉屋
大包金二朱
中包金一朱
小包百疋
春水作國貞画
版元
紅英堂
欽白

彩画の尾作
春水化
国貞画